

学校関係者評価

受審月日 令和4年6月2日（木）

評価者 上村 泰弘（済生会松阪総合病院副院長） 鶴森 立美（済生会松阪総合病院看護部長）
 田端 正己（松阪中央総合病院院長） 濱口 早弓（松阪中央総合病院看護部長）
 安井 浩樹（松阪市民病院副院長） 横山 孝子（松阪市民病院看護部長）
 松島 聡（済生会明和病院院長） 越川 由美子（済生会明和病院看護部長）
 齋藤 真一（松阪厚生病院長代理） 田米 郁子（松阪厚生病院看護部長）
 池村 百合子（南勢病院看護部長）
 成瀬 美恵（独立行政法人国立病院機構三重中央医療センター附属三重中央看護学校副学校長）
 大森 隼一郎（同窓会「松看会」会長）
 池田 江里（在校生保護者代表）
 山崎 千恵子（松阪市障がい福祉課主幹保健師）

令和3年度

松阪看護専門学校 学校関係者評価

評価項目	評価内容
I. 教育理念・教育目的・教育目標	教育理念・目的・目標に関して地域に貢献する看護専門学校として社会が求める内容であり、育成目標となっている看護師像は明確になっている。掲示ならびにシラバスへの明示や外部講師への説明もなされ、学生や教職員、講師の意識づけがなされている。今後も講師や実習関係者、学生に継続して周知を行っていただきたい。
II. 教育課程	新カリキュラムの移行に向けて、教育理念・目的・目標との適合性が担保できるように科目と単元が設定されている。学生が行う講義アンケート結果をもとに評価が行われ、個人情報保護や倫理規定の明確化などの配慮もなされている。コロナ禍でも感染予防をしっかりと配慮し、他校との共同学習、遠隔授業の使用など様々な教育プログラム、教育方法を取り入れられており工夫を凝らした取り組みがなされている。臨地実習においても感染拡大の状況に応じ、ZOOMを活用し、カンファレンスに実習指導者や、認定看護師、教育担当看護師長の参加を組み入れるなどの工夫もなされ、教育の質の担保ができています。今後も突発的な問題にも対応できるよう、実習施設との連携を図りながら学生への学びの環境を整え、新設された科目の実践・評価を行ってください。
III. 教授・学習・評価過程	コロナ禍で多くの制約を受ける中、学生の不利益にならないように環境や教授が工夫されている。新カリキュラムが承認され、多職種連携や地域とのネットワーク等の内容も開始される。学生にも分かりやすく、個々の教員が状況に応じて授業内容の工夫がされているので今後も継続していただきたい。令和5年度の新出題基準が発表されたので、早々に授業内容への反映をお願いしたい。さらに、実習における技術項目達成度とチェック表が、学生自ら入力できるシステムになり実習評価を点数化したことはさらに学びの評価が明確になったといえる。今後はルーブリックを取り入れた評価の検討が課題となると思われる
IV. 経営・管理過程	定期的な運営会議が開催され、経営や運営についてスタッフに周知されている。経営的にどの施設、看護専門学校ともに厳しい中、学籍支援システムやiPadの増設など必要な教材を整備されている。授業料、学費を下げなくても学生が集まる教育を実行することや、学校の魅力を発信が重要である。財政基盤については新型コロナウイルスの影響による医師会全体の減収が見込まれているため、今後の状況把握が重要である。

V. 入学	看護師教育も大学化が進み、看護専門学校は全国的にどの学校も入学生の確保に厳しい状況にある。大学との差別化、メリットをさらに明確化していくことが求められる。入試回数を増やしたり、社会人入試を行うなど、多様な入学希望者を募る努力をされていることは、受験者数の確保につながると思われる。学生が主体的に作成した「校内ツアー」や「学生の1日」の動画は入学希望者には分かりやすい。このような広報活動も継続していただきたい。
VI. 卒業・就業 ・進学	就職先と連携がなされ、卒業生とも連絡を取るなど、卒業後の活動状況を把握されている。松阪地区医師会管内への就職率も高く、年々増加していることより、地域医療への貢献は十分にできている。卒業後は同窓会を通じてつながりを継続していけるように今後も支援をお願いしたい。卒業時の到達状況の把握・分析は実施できており、個々の学生の卒業後の実践状況も、就職先に評価いただいている。卒業後の状況調査についてはアンケートの回収率が100%というのは素晴らしいことで、是非継続をしてほしい。また、その結果を在校生にも開示することも有益である。新カリキュラムの授業を実際に展開することにより、その教育効果を追跡調査していただきたい。
VII. 地域社会・国際 交流	授業の内容にもボランティア活動や地域の行事への参加が組み込まれ、地域貢献として、多くの地域活動に参加・協力されたことは評価できる。外国語では地域の在留外国人の傾向から、フィリピン語を学ぶなど、地域密着の特性がうかがえる。今後もコロナの感染状況を踏まえて地域支援活動を進めていただきたい。
VIII. 研究	研修には積極的に参加されている。しかし、教員の研究活動が進まない原因追及が必要である。研究体制は整えられているため、今後は学生にも看護研究に対して意識の向上を図るためにも教育者が取り組む姿勢を見せていくことも必要と思われる。各病院の看護研究との協働が必要と思われる
総評	学校職員により継続的に自己点検・自己評価がなされ、抽出した課題に取り組み、学校運営や教育の質の向上に努められている。カリキュラムは地域の特性を生かし、かつ学生目線で考えられており評価できる。国家試験合格率は高率を維持し、ほぼ全員が松阪地区に就職していることから、地域に根差す看護学校として十分に役割を果たしている。少子化の中で今後いかに定員を確保するかが課題である。実習病院とも協働しながら入学者数の確保、入学者の支援を行っていくなど、今後も連携を密にしながら学校運営を行ってください。